

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678200108
法人名	有限会社 千華
事業所名	グループホーム 鶴と亀
訪問調査日	平成 21 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 22 年 2 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4678200108
法人名	有限会社 千華
事業所名	グループホーム 鶴と亀
所在地	鹿児島県稲毛郡屋久島町小瀬田849-18 (電話) 0997-43-5501

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年12月19日	評価確定日	平成22年2月1日

【情報提供票より】(平成21年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	17.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円 (光熱費)	
敷金	有(30,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円	
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050	円

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小瀬田診療所 ・ 小瀬田診療所歯科
---------	-------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薄っすらと雪を被った愛子岳が、屋根に亀の絵とグループホーム鶴と亀と書いたホームを見下ろしている。芝生の庭は広く運動会を開いて地域と交流できる場となり、利用者と一緒に作っている菜園で収穫する野菜は、食卓を豊かにし、12月を迎えライトアップされた建物は、利用者の楽しみの一つとなっている。僻地医療に力を尽くしたいとこの地に開業された診療所と同じ敷地にあることは、本人や家族、職員にとっても安心できる材料であり、また、さまざまな職業を経験した職員がそれぞれの力を活かしながら利用者の笑顔ある生活を支えていることが窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は、運営推進会議や職員会議で報告している。課題であった職員を育てる取り組みについては、研修計画を立てるまでには至っておらず取り組み継続中である。災害対策は、避難経路の確保という点で階段部分をスロープに改修するなど改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は管理者の体調不良による交代があったため、職員全員で自己評価に取り組む時間的余裕がなく、新管理者が昨年の評価をもとに今年度の評価を職員の意見を聞きながら行なっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、地域民生委員、町職員、包括職員などが参加して開催されている。事業所の行事に参加してもらってから次回には意見を頂く方法と、報告や意見交換を中心に行う方法とに分け工夫しながら、利用者が地域の中でより良く暮らしていけるような話し合いの場をもっている。民生委員や包括職員から情報を頂き、他の事業所との交流の橋渡しを行ってもらうなどサービスに反映させるようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見や苦情、要望を表せる機会は、運営推進会議や面会時等と、玄関に置いてある意見箱や第三者委員会があることを家族に伝えている。家族が集まって話しをする機会が少なく、面会時等には家族から意見を引き出せるように配慮している。出された意見は話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入していないが、地域行事の愛子祭りや花火大会、町民体育大会などに参加している。事業所での行事には、地域の方の参加を呼びかけ幼児教室のお子さん達の踊り、地域ボランティアの歌などを楽しんでいる。また、小学、中学、高校の職場体験の受け入れも行なっている。今後も近隣住民との付き合いを大切にしていきたいと考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年度に基本理念に地域密着型サービスの理念、「あなたと共に地域活動への参加やホームイベントの案内・実施に努めます。」という内容を付け加えているが、事業所の状況をふまえて新しい理念に替えようと計画している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所や廊下、トイレに掲載されている他、毎朝の申し送り時に唱和することで意識付けを行っている。地域密着の理念はケアプランに取り入れ、墓参りすることなどを盛り込んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、村おこしの愛子祭り、町民体育大会や花火大会などに参加し地域の方と交流している。また、事業所での行事に地域の参加を呼びかけ幼児教室のお子さんの踊りや歌を楽しんでいる。また、小学、中学、高校の職場体験の受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者の体調不良による交代があったため、職員全員で行う時間的余裕がなく、新管理者が昨年の自己評価を元に今年の評価を職員に聞きながらまとめている。	○	自己評価を職員全員が関わることで、ケアを振り返る機会となるように希望します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に、利用者、家族、地域の代表と町職員が参加して開催している。事業所の行事に参加してもらい、次の会議では参加した感想や意見交換をする方法をしている。包括職員のアドバイスで他の事業所の会議に出席させてもらい良いところを取り入れ、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは対応困難な事例の相談に行ったりして情報交換している。民生委員の見学や介護相談員の受け入れも行い、共に協働しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回発行している新聞には、利用者の日頃の様子を写真入りで伝え、新人職員の紹介、職員の随筆などが記載され、家族、町役場や警察署にも届けているが好評である。健康状態は3ヶ月に1回担当職員が個人の写真入り用紙で報告している。金銭の預かりは数名で面会時に残高と金銭出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口として第三者委員があることを家族に説明している。その他苦情や意見を表せる機会は、運営推進会議や面会時、電話等であるため意見を引き出せるように職員は配慮している。出された意見や要望は、職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員の研修は3ヶ月間あり、両棟で研修を行いどちらにも対応できるので、急な離職や異動でも協力し合って利用者がダメージを受けないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回行っている職員会議では、必要と思われる認知症・感染症についてなどの研修を行っている。外部研修は職員の希望を優先し、参加後は伝達講習が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊毛地区連絡協議会に加入し、職員が勉強会や交流会に参加している。他の事業所へ見学に行ったり、見学に来たりと相互訪問の機会を得てサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族の見学は多いが本人の見学が少ないので、こちらから出かけて行き、生活歴の把握や情報を収集し顔馴染みの関係を築くようにしている。入居後は不安を和らげるように、家族の面会や電話を多くしてもらい職員が寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と生活を共にする中で、野菜の作り方やお茶の入れ方を教わった時には、感謝の言葉を伝えている。職員が疲れている様子が見える時には、励ましの言葉や肩を揉んでくれるなど、お互い支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に寄り添い会話の中から意向を把握するように努めている。1ヶ月に1回のケース会議で3名ずつ、職員の気づきを話し合い職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員を中心に、サービス内容を検討し意見を出し合っている。家族が担当者会議に参加できない場合には電話等で確認している。介護計画は、本人の思い、家族の意向、職員の気づきなどを反映したものにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のあった利用者は、ケース会議で意見を出し合い、検討している。変化のない場合も毎月担当職員と計画作成担当者で検討している。退院時などは、必要な関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の支援や緊急の場合には同敷地内の診療所から往診に来てもらっている。また、墓参りや法事、出身地域の敬老会参加などの外出支援やお盆とお正月の外泊支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。他科受診には紹介状を書いてもらい、適切な医療を受けられるように情報提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての対応方針は検討中である。	○	事業所としての方針を明確にすると共に、重度化や終末期に伴う対応の指針を作成し、家族に説明を行い同意を得る事を希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないような対応を心がけ、言葉遣いや職員間の会話にも注意を払うように、申し送りや職員会議で確認している。記録物等の個人情報の取り扱いも適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、体調や気分に合わせて希望を取り入れた支援をしている。起床時間をゆっくりにしたり、居室で昼食を摂ったり、晩酌を楽しんだり、教会に出かけたり、テレビを見たりと一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前は嚙下体操を行い、テレビを消し静かな音楽を流し食事への雰囲気作りをしている。献立は利用者の希望を取り入れ、菜園で収穫された野菜も食卓を賑わせている。利用者は力量に応じて、下ごしらえや片付けなどを手伝い、和やかにテーブルを囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できる体制になっているため、利用者は1日おきに入浴している。入浴できない場合は、清拭と着替えをしている。拒否される方には、気分を確認しながら声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除や洗濯物たたみ、畑仕事など出来る事、好きな事を役割とし、グランドゴルフや歌、ぬりえなどのレクリエーションの他、季節の花見、ドライブ、買い物、2カ月に1回ご住職がお経をあげに来られるなど楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内は広く菜園もあり、天気の良い日は、車椅子の方も一緒に園庭に出て外気浴をしたり、隣の棟に遊びに行ったりしている。また、事業所の食材の買出しに利用者も同行したり、教会に行ったりと希望に沿って出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵を掛けることなくチャイムで対応している。外出傾向の方は今はないが、外に行きたい様子が見えた時には職員と一緒に付いていくようにしている。一人で外出した場合には、同敷地の診療所職員の協力を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に年2回の消防訓練を行っている。職員は応急手当等について消防隊員より講習を受けている。前回評価で指摘された2号棟の避難経路を階段からスロープに改装している。	○	さまざまな災害を想定した訓練と夜間想定避難訓練を行って行くことを希望すると共に、災害時に地域の協力を得られるように、運営推進会議などでの働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分の摂取量は把握され記録している。職員は献立が重ならないように配慮し、利用者の状態に応じて一口大ややわらかくしたりしている。毎月体重を測定し状態変化に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芝生の広々とした庭があり、2号館のホールから直接車椅子で出られるスロープが作られている。ホールには小上がりの畳、ダイニングテーブル、観音様を祭った祭壇、テレビをゆったり見れるようにソファが置かれている。対面式のキッチンから漂う料理の匂いや包丁の音は家庭的である。玄関にはクリスマスツリーやイルミネーションも飾られ季節を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には住所と名前が掲げられている。居室にはベットと季節に合わせ加湿器が備え付けられている。利用者が使い慣れたテレビやタンス、椅子などが持ち込まれ、大切にしている仏壇、観音様、写真、ぬいぐるみなどが置かれその人らしい居室となっている。		